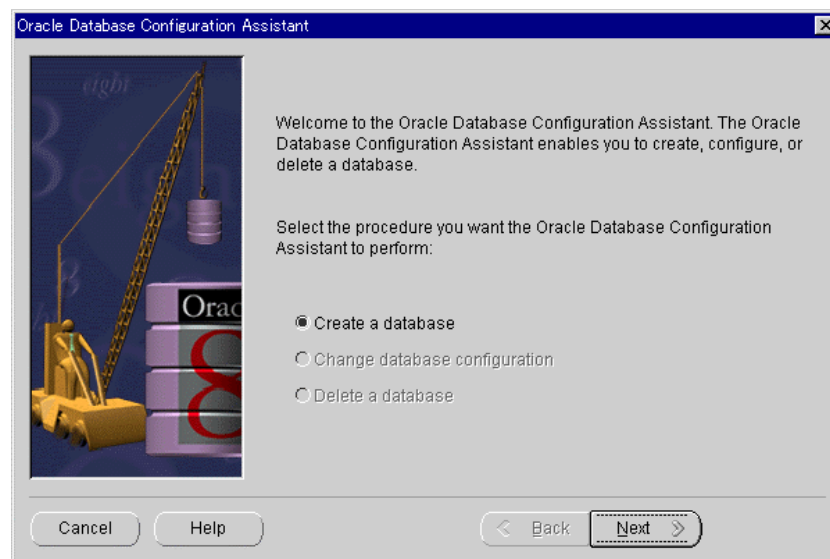


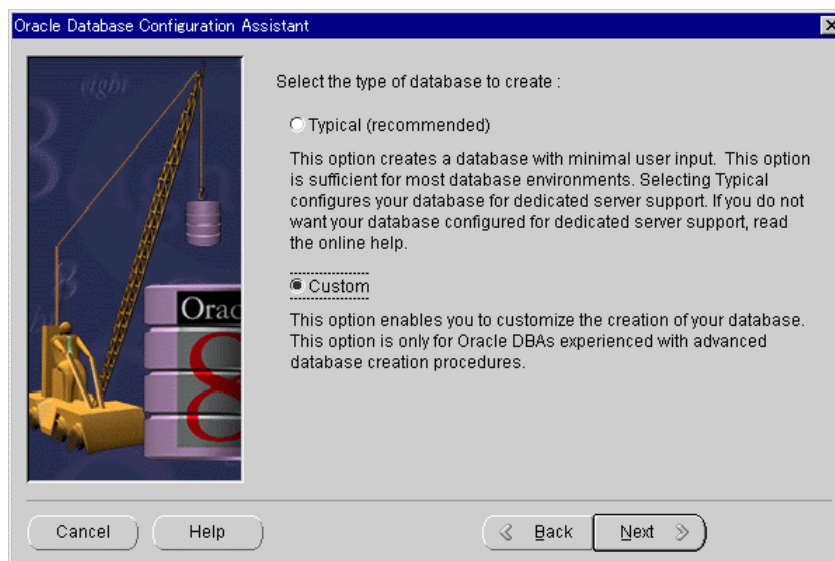
Oracle8i (8.1.6.0.0)でのデータベース(SID)の作成方法

PDS で使用するデータベースの作成例を示します。以下の説明では、Oracle のソフトウェアが D:\Oracle フォルダ以下にインストールされているものとします。また、作成するデータベースの SID (データベース名)を“PDS”、データベースファイルを D:\Oracle\Oradata フォルダ以下に作成するものとします。以下の作業は、データベースサーバに対して Administrator としてログオンした状態で行います。

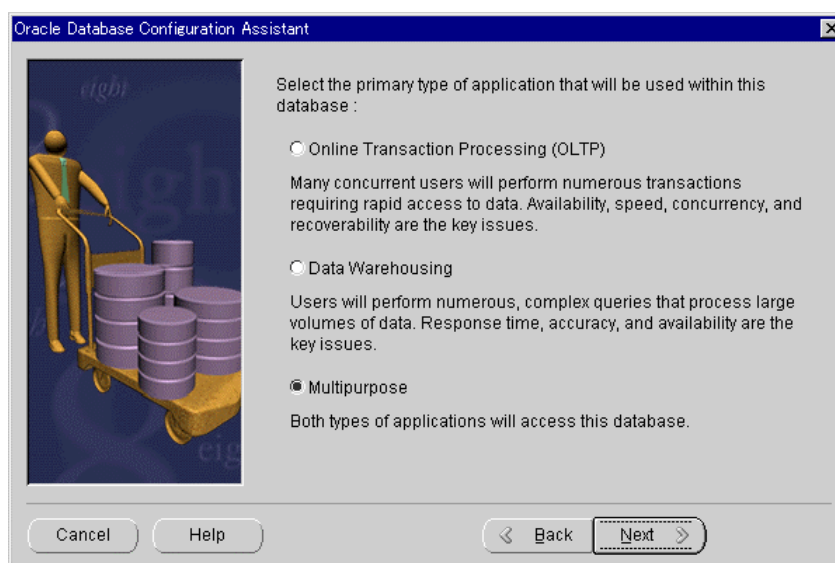
- 1) **スタート**メニュー **プログラム** **Oracle – OraHome81** **Database Administration Database Configuration Assistant** を起動します。
- 2) **Create a database** を選択し、**Next >**ボタンを選択します。



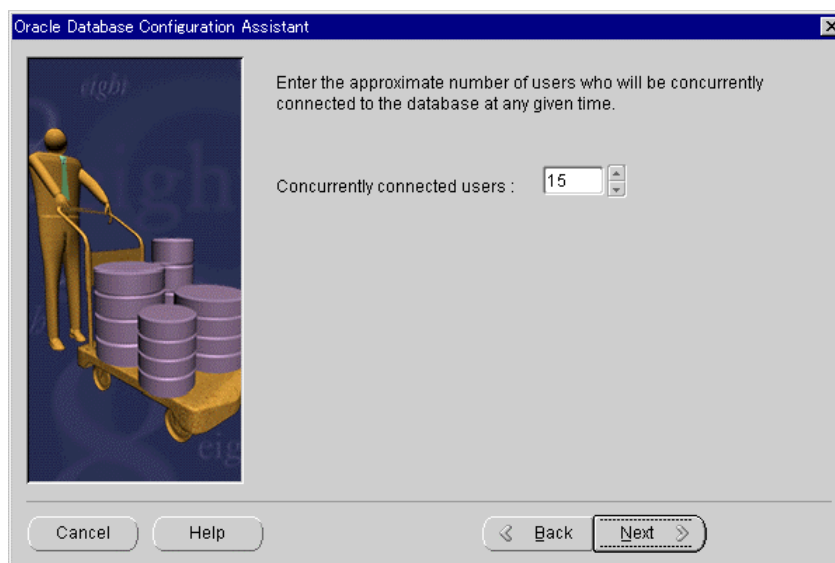
3) **Custom** を選択し、**Next >**ボタンを選択します。



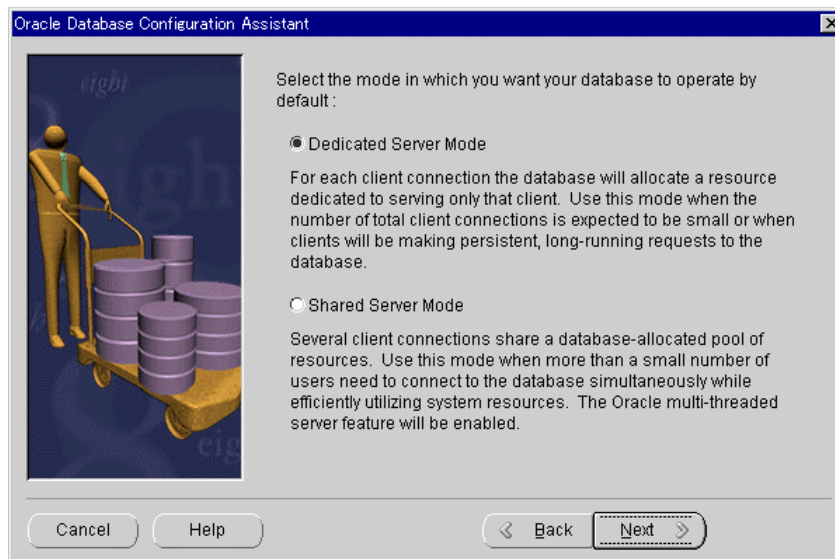
4) **Multipurpose** を選択し、**Next >**ボタンを選択します。



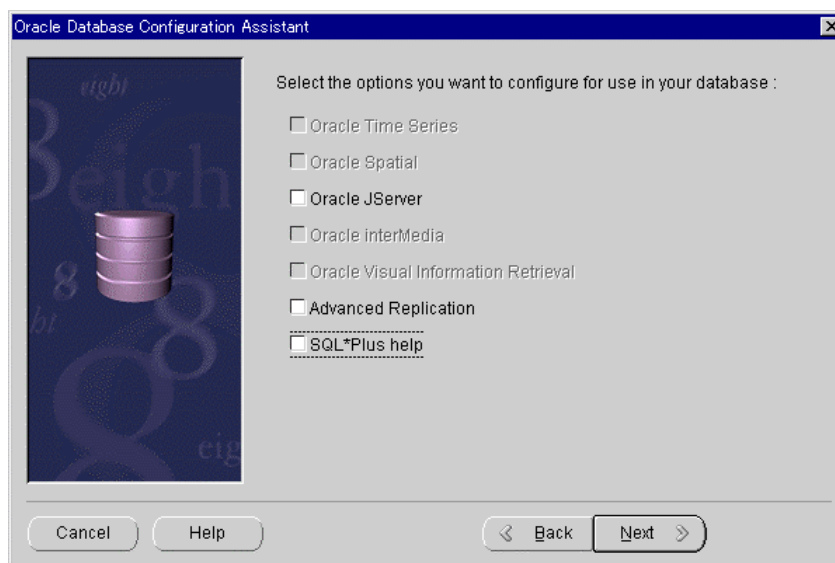
- 5) データベースサーバに対して同時に接続するユーザの数を入力します。Next >ボタンを選択します。



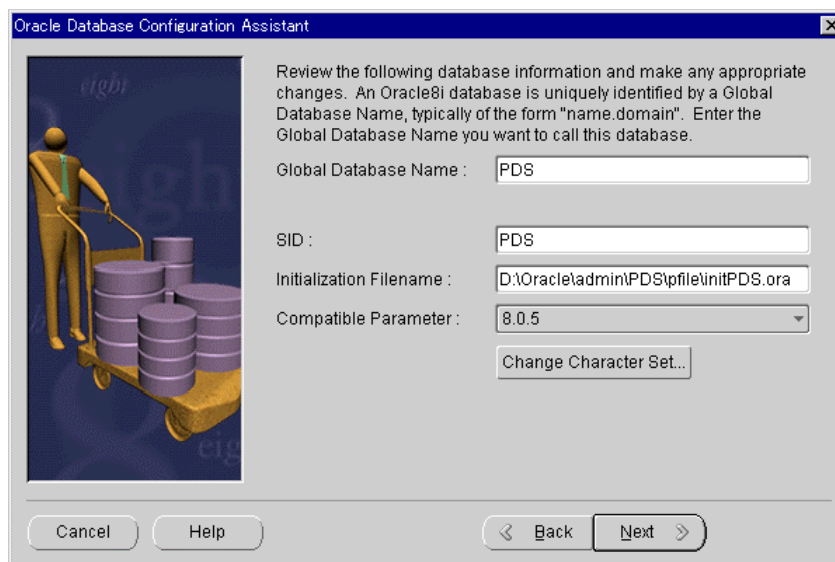
- 6) Dedicated Server Mode を選択し、Next >ボタンを選択します。



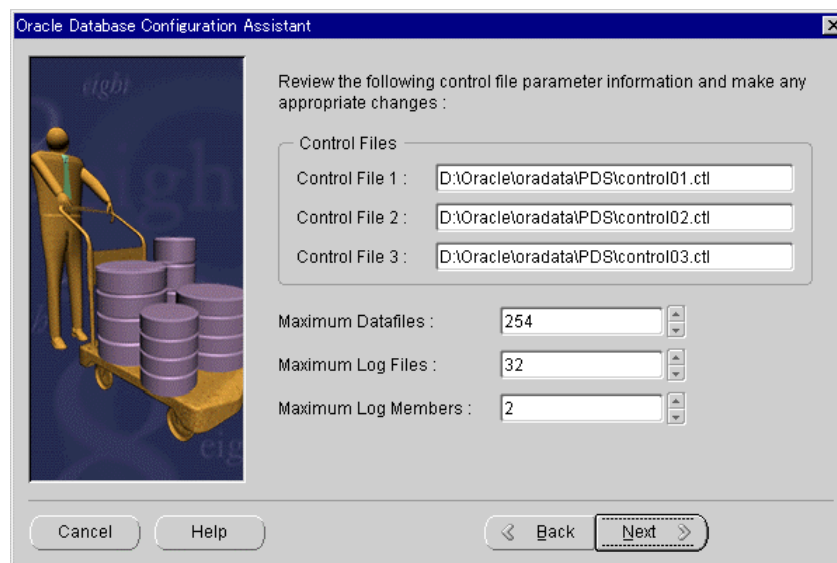
- 7) Oracle JServer, Advanced Replication, SQL*Plus help の各オプションのチェックマークを外し、Next >ボタンを選択します。



- 8) Global Database Name に対して作成するデータベースの名前を入力し、Tab キーを押します。SID および Initialization Filename は、Global Database Name を基に自動的に入力されます。Next >ボタンを選択します。



- 9) Control Files の画面では、デフォルトの設定のまま **Next >** ボタンを選択します。



- 10) 各テーブルスペースに関する設定値を入力します。各項目の入力を行った後、**Next >** ボタンを選択します。

System

Size	100MB
Auto Extend	OFF

Tools

変更なし

User

Name	PDS
Size	300MB
File	D:\Oracle\oradata\PDS\pds01.dbf
Auto Extend	OFF

Rollback

Size	50MB
Auto Extend	OFF

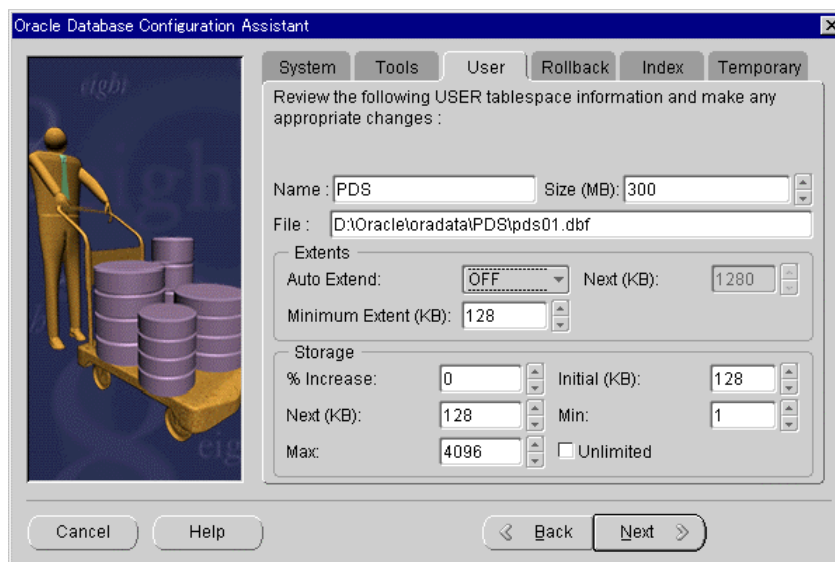
Index

変更なし

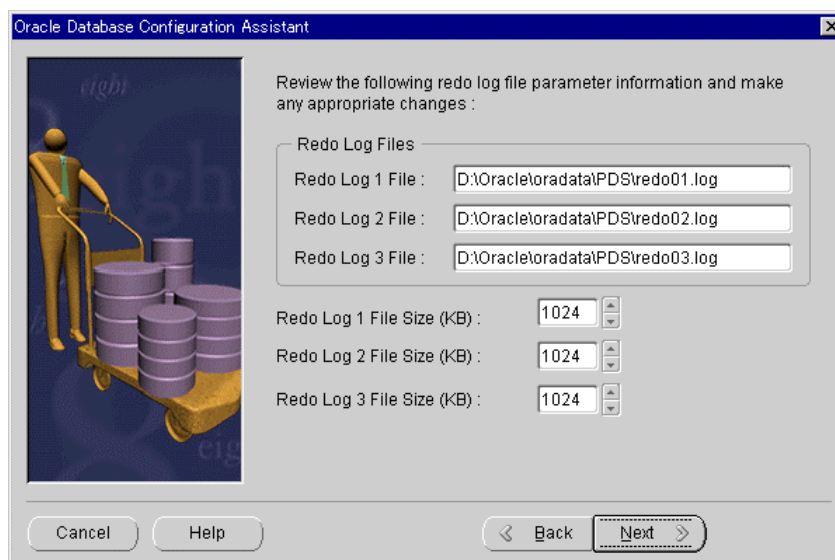
Temporary

Size 30MB

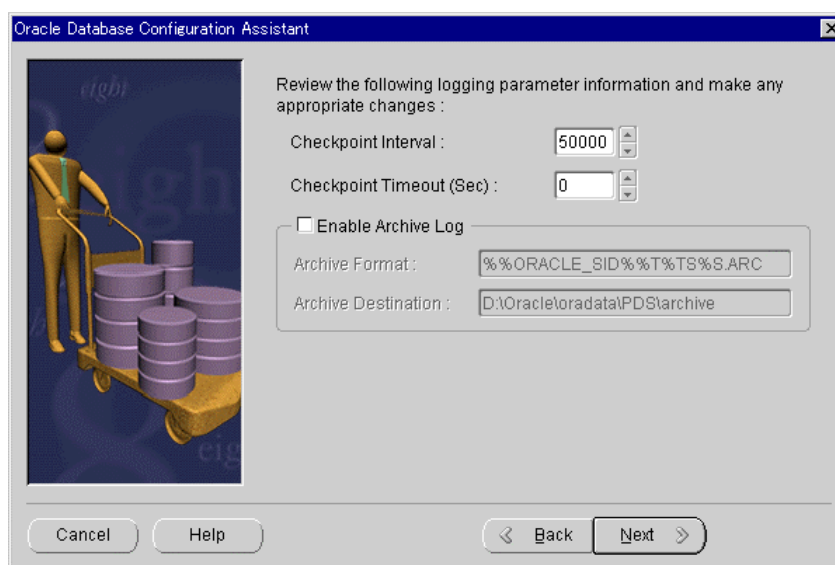
Auto Extend OFF



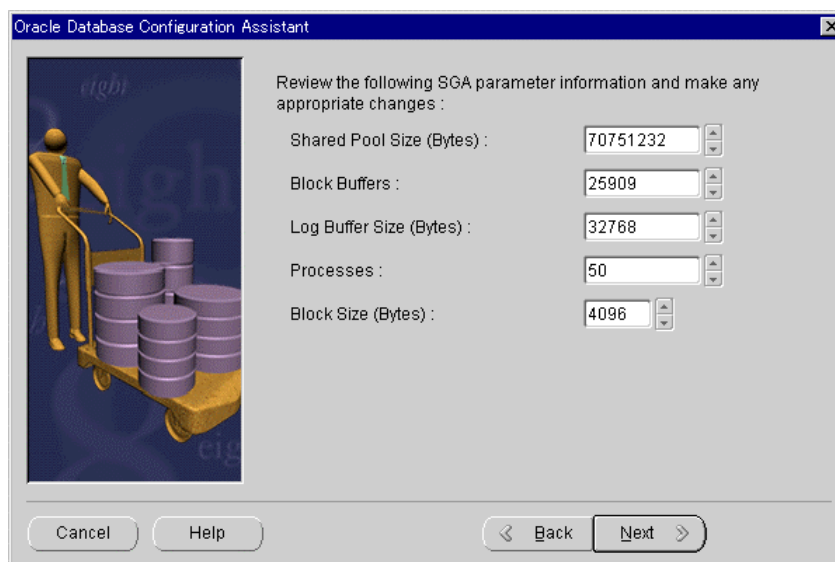
- 11) Redo Log Files の画面では、デフォルトの設定のまま **Next >** ボタンを選択します(後で設定を変更します)。



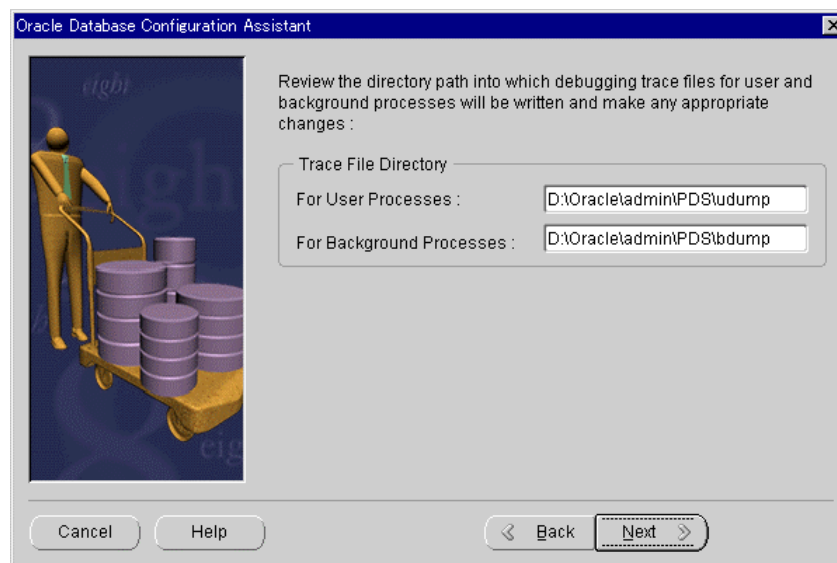
- 12) Checkpoint Interval に対して **50000** と入力します。また、Checkpoint Timeout に対して **0** と入力し、**Next >**ボタンを選択します。



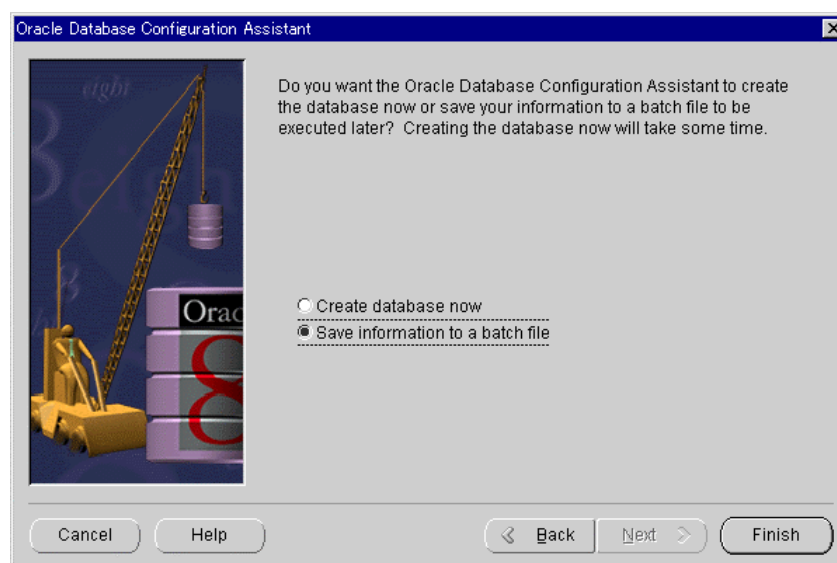
- 13) Block Size に対して **4096** と入力します。 **Next >**ボタンを選択します。



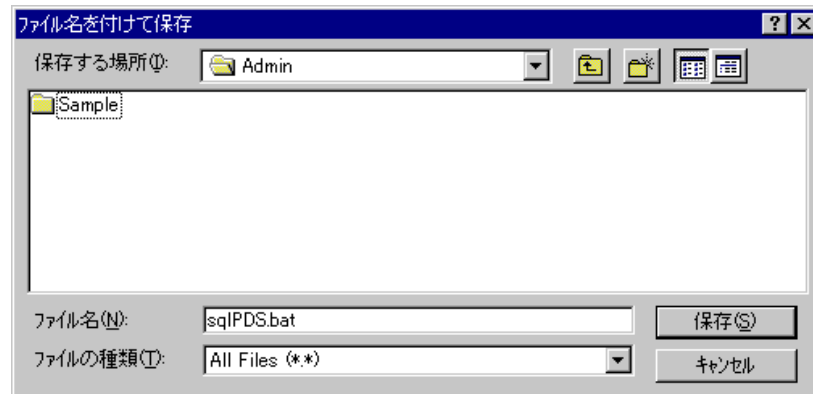
14) Trace File Directory の画面では、デフォルトの設定のまま **Next >** ボタンを選択します。



15) **Save information to a batch file** を選択し、**Finish** ボタンを選択します。



- 16) スクリプトファイルを保存するフォルダとして、D:\Oracle\Ora81\Admin を選択します。ファイル名として sqlPDS.bat と入力し、**保存** ボタンを選択します。



- 17) 以下の 4 つのファイルが作成されます。

PDSalterTablespace.sql

PDSrun.sql

PDSrun1.sql

sqlPDS.bat

Notepad 等を使用して、これらのファイルを以下のように修正します。

PDSrun.sql

LOGFILE の部分を、以下のように変更します。

```
LOGFILE 'D:\Oracle\oradata\PDS\redo01.log' SIZE 10M,  
        'D:\Oracle\oradata\PDS\redo02.log' SIZE 10M,  
        'D:\Oracle\oradata\PDS\redo03.log' SIZE 10M
```

PDSrun1.sql

CREATE TABLESPACE RBS...コマンドの
DEFAULT STORAGE (INITIAL 512K NEXT 512K MINEXTENTS 8 MAXEXTENTS 4096);
の部分を、
DEFAULT STORAGE (INITIAL 512K NEXT 256K MINEXTENTS 1 MAXEXTENTS 4096);
に変更します。

TOOLS テーブルスペースに関連する部分(REM...から MAXEXTENTS...の 5 行)、および
INDX テーブルスペースに関連する部分(REM...から ALTER...の 5 行)を削除します。

以下のコマンドの STORAGE (OPTIMAL 4096K);の部分を STORAGE (OPTIMAL 1024K);に変更します。変更後のコマンドをコピーし、RB0 から RB19 までの 20 個のロールバックセグメントが作成されるようにします。

(変更前)

```
CREATE PUBLIC ROLLBACK SEGMENT RB0 TABLESPACE "RBS"
STORAGE ( OPTIMAL 4096K );
```

(変更後)

```
CREATE PUBLIC ROLLBACK SEGMENT RB0 TABLESPACE "RBS"
STORAGE ( OPTIMAL 1024K );
```

以下のコマンドをコピーし、RB0 から RB19 までのロールバックセグメントが ONLINE に設定されるようにします。

```
ALTER ROLLBACK SEGMENT "RB0" ONLINE;
```

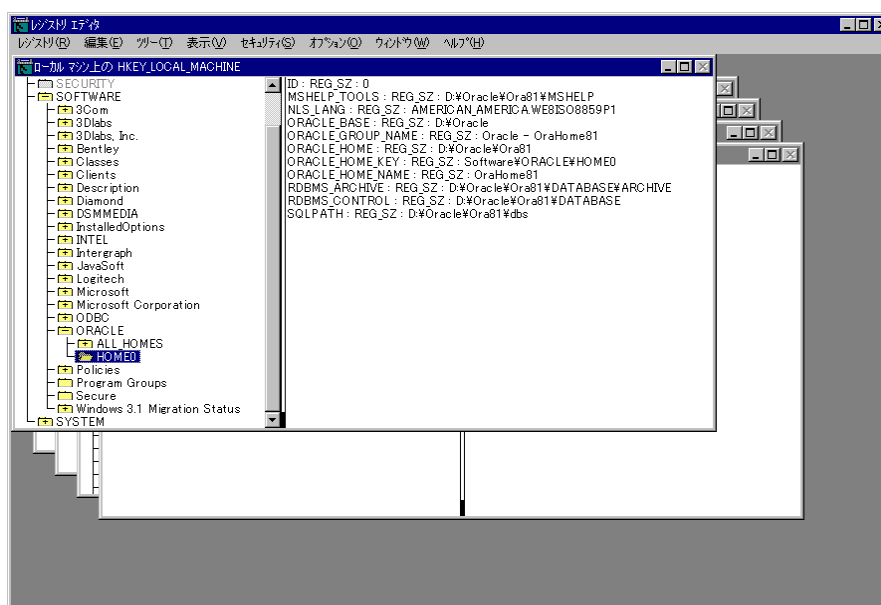
PDSalterTablespace.sql

以下のコマンドを削除します。

```
alter user system default tablespace TOOLS;
```

18) コマンドプロンプトを起動します。 **regedt32** と入力し、レジストリエディタを起動します。

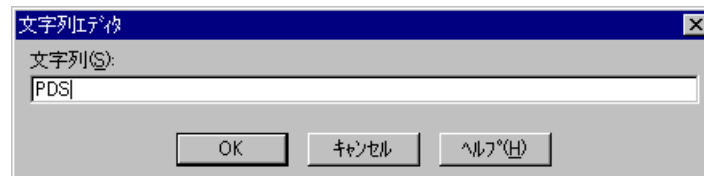
19) HKEY_LOCAL_MACHINE ウィンドウの SOFTWARE\ORACLE\HOME0 を表示します。



- 20) メニューの**編集** **値の追加**を選択します。値の名前として **ORACLE_SID** と入力します。データタイプとして **REG_SZ** を選択し、**OK** ボタンを選択します。



- 21) 文字列エディタが表示されます。文字列として **PDS** と入力し、**OK** ボタンを選択します。



- 22) sqlPDS.bat ファイルを実行します。データベース作成の処理が開始されます(20 分間程度の時間がかかる場合があります)。終了後、D:\Oracle\admin\PDS\create にログファイル (createdb.log, createdb1.log)が作成されます。

```

C:\WINNT\System32\CMD.exe
Echo ON
SVRMGR> connect INTERNAL/oracle
Connected.
SVRMGR> startup nomount pfile="D:\Oracle\admin\PDS\pfile\initPDS.ora"
ORACLE Instance started.
Total System Global Area          198604044 bytes
Fixed Size                        70924 bytes
Variable Size                     92332032 bytes
Database Buffers                  106123264 bytes
Redo Buffers                       77824 bytes
SVRMGR> CREATE DATABASE PDS
 2> LOGFILE 'D:\Oracle\oradata\PDS\redo01.log' SIZE 10M,
 3> 'D:\Oracle\oradata\PDS\redo02.log' SIZE 10M,
 4> 'D:\Oracle\oradata\PDS\redo03.log' SIZE 10M
 5> MAXLOGFILES 32
 6> MAXLOGMEMBERS 2
 7> MAXLOGHISTORY 1
 8> DATAFILE 'D:\Oracle\oradata\PDS\system01.dbf' SIZE 100M REUSE AUTOEXTEN
D OFF
 9> MAXDATAFILES 254
10> MAXINSTANCES 1
11> CHARACTER SET WE8ISO8859P1
12> NATIONAL CHARACTER SET WE8ISO8859P1;

```

23) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、Server Manager を起動します。

```
C:\>svrmgrl
```

24) Server Manager に対して以下のコマンドを入力し、ユーザ internal として connect します(ユーザ internal のパスワードは oracle に設定されています)。

```
SVRMGR> connect internal/oracle
```

25) 以下のコマンドを入力し、データベースを停止します。

```
SVRMGR> shutdown
```

26) D:\Oracle\admin\PDS\pfile\initPDS.ora ファイルを Notepad 等で開き、以下の行の#文字を削除します。また、RBS6 以降に RBS7 から RBS19 までの指定を追加します。

(変更前)

```
#rollback_segments = ( RBS0, RBS1, RBS2, RBS3, RBS4, RBS5, RBS6 )
```

(変更後)

```
rollback_segments = ( RBS0, RBS1, RBS2, RBS3, RBS4, ... RBS17, RBS18, RBS19 )
```

27) Server Manager に対して以下のコマンドを入力し、データベースを起動します。

```
SVRMGR> startup
```

- 28) ユーザ system として connect し、以下のコマンドを実行します(ユーザ system のパスワードは manager に設定されています)。

```
SVRMGR> connect system/manager
```

```
SVRMGR> @d:\oracle\ora81\rdbms\admin\catdbsyn.sql
```

(ORA-01434 等のエラーが発生します。)

- 29) Server Manager を終了します。

```
SVRMGR> exit
```